

地歴公民科「地理 B」授業実践紹介

授業者：八幡 信哉

学 年：2年

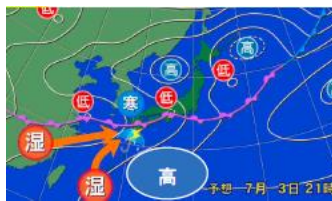
単元名：日本の自然環境～防災マップを作り危険個所、避難ルートを確認しよう～

単元のねらい(7つのチカラ; 自分を理解する力、コミュニケーション力)

- ①日本の自然環境、災害について学び、自分の身近に起きる災害について、その防災の在り方を考える。
- ②各自で作成した防災マップをもとに、起こりうる災害、危険個所、避難ルートについて、発表、意見交換をする。

単元の流れとパフォーマンス課題

- ①日本の自然環境、災害、防災について学ぶ。
- ②熊本県南部豪雨災害をとりあげ、気象条件や災害が起きやすい地形的な条件を考える。
- ③防災マップの作り方、フィールドワークのやり方について確認する。
「重ねるハザードマップ」を使って自分の家の周辺の災害について確認する。



- ④防災マップをもとに、起こりうる災害、危険個所、避難ルートについて、発表、意見交換をする。



砂川が氾濫すると自宅の近くは洪水にあう。近所のおばあちゃんが、瀬戸南高校の裏辺りで決壊したことがあると言っていた。平成 30 年 7 月の西日本豪雨の時、さらに南の東平島は砂川が決壊した。歩いてみて気づいたことは、家の周辺には電柱が多く、道路側に少し傾いていたり、ブロック塀や空き家など地震の時に倒壊しそうなものもあった。狭い路地が多く、小学校までの道は塞がってしまうかもしれない。県道に出て、高校に避難したほうが、洪水の時も高い建物なのでよいと思う。(生徒の発表から)

パフォーマンス課題のルーブリック

到達度	2	1	0
I 関心・意欲・態度	学習成果をもとに防災マップに取り組む、積極的に意見交換できた。	防災マップに取り組み、気づいたことを発言できた。	防災マップに取り組めなかった。意見を求められても発言しなかった。
II 思考・判断 III 技能・表現	現場や地図から問題点や課題を読み取り、わかりやすく説明できた。	自分でも考え、他の考え方も参考に課題を見つけることができた。	自分から課題を考えず、人の意見を聞いても他人事にしか感じなかった。
IV 知識 理解	災害の現状や防災上の課題について、自分のこととして理解できた。	災害の現状や防災上の課題について、いくらかは理解できた。	災害や防災上の課題について深く考え理解することができなかった。

単元を通して身につけてほしいこと

日本の自然環境、災害、防災について一通り学習した後、防災マップ作りに取り組む。はじめに、国土交通省の「重ねるハザードマップ」を使って必要な情報を読み取り、洪水や土砂災害などが起こりうるか自分の家の周辺の災害について確認する。実際に、フィールドワークで起こりうる災害、危険個所、避難ルートについて現場を確認し、防災マップを作り、発表し、他の生徒の防災マップの発表を聞き、気づいたことを意見交換しあうことで、自身の防災に役立てることができるようにしてほしいです。